

# 三島駅南口周辺開発地下水対策検討委員会

## 第 11 回 議事録

### I 部 現場見学の部

#### 日時

2025 年（令和 7 年） 8 月 19 日（火） 13：30～14：05

#### 場所

三島駅南口東街区再開発事業区域（工事状況、地下水観測の説明）

#### 参加者

計 20 名（委員：5 名、マスコミ等：2 名、事業者：4 名、事務局：9 名）

#### 確認事項

- ・ 東街区再開発事業の掘削状況
- ・ 地下水観測の自動計測機の確認



## Ⅱ部 委員会の部

### 日時

2025 年（令和 7 年） 8 月 19 日（火） 14：30～15：40

### 場所

生涯学習センター3階 市民ギャラリー

### 参加者

計 25 名（委員：6 名、傍聴者：2 名、マスコミ等：1 名、事業者：6 名、事務局：10 名）

選出区分	氏 名	所属・役職	出欠
学識（地下水）	辻村 真貴 （委員長）	筑波大学教授	○
学識（環境）	水谷 洋一	静岡大学教授	○
学識（建築）	丸田 誠	静岡理工科大学教授	○
楽寿園運営委員	委員未選出のため欠員		-
三島ゆうすい会	大村 洋子	会長	○
三島商工会議所	遠藤 正幸	建設業部会 副部会長	○
三島市	瀧口 浩一	副市長	○

※楽寿園運営委員の改選の都合により、次期委員が決定していないため、今回は欠員となりました。

※委員の変更 三島市 井口 智樹 → 瀧口 浩一

### 第 11 回検討会の様子



## **議事内容（敬称略）**

### **【1. 開会】**

**事務局**：（開会を宣言）

### **【2. 委員長あいさつ】**

**委員長**：（開会あいさつ）

I 部の現場見学では、現場でしか見られないことが多くあり、改めて勉強になった。  
先日、長野県乗鞍の標高 2000m を超える場所で観測を行った。3 日間で 800mm を超える降雨があり、これまでに見たことないほど水が湧いている大変貴重な現場を見てきた。苦労して現場に行くことで、実際に現象を目で見ることができるということを改めて感じたところである。  
本委員会においても、毎回しっかりと現場を視察することができ、大変貴重な場である。本日も、皆様からご意見をいただきたい。

**事務局**：進行は辻村委員長にお願いします。

### **【3. 議事】**

**委員長**：（議事進行）

#### **（1）第 10 回委員会の概要等について**

■資料説明 事務局より、資料 1 について説明を行った。

■質疑応答 なし

#### **（2）三島駅南口東街区市街地再開発事業の進捗状況等について**

■資料説明 事務局より、資料 2 について説明を行った。

■質疑応答

**委 員**：p. 13 の平板載荷試験について、地盤の長期許容支持力が設計地耐力より大きいことを確認したところで試験を終了したと見てよいか。

**事業者**：地盤の長期許容支持力が設計地耐力を超えたことを確認した時点で試験終了とした。それ以上に載荷をしない理由は、費用面や地盤を破壊する恐れがあるためである。

**委 員**：p. 36 の説明によって、E 棟・F 棟は A～D 棟より基礎標高が高く、万一の水位上昇時にはまず A 棟や B 棟の通水口が機能し、E 棟・F 棟に通水口の設置は不要ということは理解した。台風や梅雨、局地的な雨や何百年に一度の雨の場合でも、地下水位は E 棟・F 棟の基礎の高さまで上昇することはないのか。

**事務局**：地下水位が上昇する可能性はあるが、既往最高地下水位からさらに 5m 上昇するとは考えにくい。仮にそこまで地下水位が上昇すると、三島駅より南側の市街地が水に浸かるような状況である。

### (3) 地下水調査結果

■資料説明 事務局より、資料3について説明を行った。

#### ■質疑応答

委員 : p. 10 の降水量と地下水位はどの程度相関があるのか。

事務局 : 第7回委員会にて、年間の最高水位と最低水位の水位差と先行降雨の関係を整理した。  
小浜池の最高水位は、三島観測所の6ヶ月先行降雨(決定係数  $R^2$  : =0.83)、御殿場観測所の8ヶ月先行降雨(決定係数  $R^2$  : =0.87)と、小浜池の最低水位は、三島観測所の7ヶ月先行降雨(決定係数  $R^2$  : =0.75)、御殿場観測所の4ヶ月先行降雨(決定係数  $R^2$  : =0.68)と相関がある。

委員 : 観測値の降水量と水位の相関関係があることを前提として検証した結果、先行何ヶ月間の降水量と相関があるのかを整理したものと説明するとよい。  
また、決定係数について、経済現象と自然現象では異なると思うが、あまり高くないように見える箇所もある。

委員長 : 自然現象のデータとしては妥当と言える。

委員 : p. 12 のヘキサダイアグラムについて、データに変化があった時に、それが通常の変動の範囲内なのか異常であるかを判断する基準はあるのか。

委員長 : 同じイオンの相対的な濃度差ではなく、イオン間の濃度の大小関係の変化に着目する必要がある。

2025年7月のB-6以外の時期・地点は、中段が膨らんだ形で、カルシウムイオンと重炭酸イオンが高いことを示している。一方で、2025年7月のB-6は、ナトリウムイオンが増えて上段左側が出っ張った形に変化しており、イオン間で濃度の大小関係が変化している。

雨が降ると濃度が低下するなど、相対的な濃度変化は自然現象として起こり得る。一方で、イオン間で濃度の大小関係が逆転する(ナトリウムがカルシウムより大きくなる)ことは大きな変化と捉えている。ヘキサダイアグラムの左肩が大きくなるのは、古い地下水に見られる傾向であるが、突然地質が変化したとは考えにくいので、何か他の要素があるのだと思う。

委員 : イオン分析は、通常は年2回(7月と1月)実施している。市としては、次回1月の調査までに1回の追加調査を実施したいと考えている。

委員長 : 引き続き注視し、次回の調査結果を見ていく。

委員 : B-6は、三島駅の北側に位置している。今回の変化は、工事とは関係がないと考えてよいのか。

委員長 : そう考える。何か別の要因があるのかもしれない。

**委員**：p. 17 の pH の結果について、現地で採水して測定した値は 7.24 であるのに対して、自動計測機の値は 7 を下回っている。電氣的なノイズによりこれほど差は生じるのか。

**事務局**：通常時は pH7 程度で安定しているが、タワークレーンの稼働状況と連動して一時的に pH が低下している。

**委員長**：p. 16 で、自動計測機の値が現地採水の値より低く測定されるようだが、その要因までは特定できていない。毎月、現地で地下水を汲み上げて測定することで実際の水質を確認し、それではカバーしきれない急激な変動を見るために自動計測機を設置しているが、今回、その測定値に影響するような事象が起きてしまったところである。ここまでの変動は見たことがない。引き続き要因を推定するとともに、実際の地下水の水質については、現場で汲み上げて測定しているものを確認していくことになると思う。

**委員**：pH の急激な変化については、今後もしっかり検証を行い、対応について委員の皆様へ報告する。また、今回の事象発生直後に、すぐに現地で採水して測定できたことはよかったと思っている。今後も現場と協力しながら対策をとっていきたい。

#### （４）今後のスケジュール

■資料説明 事務局より、資料 4 について説明を行った。

■質疑応答 なし

#### 【４．意見交換】

■質疑応答

**委員長**：今回委員会では、地下水位と地下水質の調査結果について説明いただいた。

地下水位について、直近 1 週間ほどの雨で状況が変化している可能性はあるが、冬から少雨であったことにより、夏頃にかけての水位上昇が昨年比べて小さかった。長期間のデータがあるので、地下水への影響があるか、また自然現象であるのかを判断する材料となる。引き続き、調査して状況を見ていくとよい。

地下水質について、B-6 で今までに見られなかった特徴があった。次回の来年 1 月調査までの間に水質分析を行う予定とのことなので、結果を確認させていただく。何らかの問題があれば、委員の皆様からご意見いただくようになると思う。

地下水位、地下水質ともに、引き続き注視していく。

#### 【５．閉会】

-以上-